

佐賀県研究成果情報（作成 2025 年 2 月）

【情報名】 水稻新品種「ひなたまる」の安定栽培法

【要約】 水稻新品種「ひなたまる」は施肥量を 10a 当たり窒素成分で基肥 4 kg、追肥 2 kg、穂肥 3 kg（合計 9 kg）とし、栽植密度は 18.2 株/㎡以上で基準収量の 570 kg/10a を達成できる。

【キーワード】 ひなたまる、施肥、栽植密度、安定多収

【担当】 佐賀県農業試験研究センター・作物部・作物栽培研究担当

【連絡先】 T E L 0952-45-8807・メールアドレス nouyoushikensenta@pref.saga.lg.jp

【分類】 普及

【部会名】 土地利用型作物

【専門】 栽培

【背景・ねらい】

当センターでは、高温条件下でも品質が優れ、収量は 2 割以上多収、良食味で、トビイロウンカやいもち病に強い中生品種「ひなたまる」を育成した。令和 7 年産から本格的に作付けが開始されるにあたり、収量・品質を安定的に確保するため、施肥体系や栽植密度を明らかにし、栽培法を確立する。

【成果の内容】

1. 水稻品種「ひなたまる」の施肥は、基肥に窒素成分で 4.0 kg/10a、追肥を 2.0 kg/10a、穂肥を 3.0 kg/10a、合計 9.0 kg/10a 施用すると安定して多収となる（表 1、図 1）。
2. 栽植密度は 18.2 株/㎡(60 株/坪)で基準収量 570 kg/10a を達成し、21.2 株/㎡(70 株/坪)ではさらに多収となる。15.2 株/㎡(50 株/坪)の疎植では、収量の年次間差が大きく、不安定である（図 2）。
3. 偏穂重型品種であるため、基準収量の 570 kg/10a を達成するために必要な穂数は、340 本/㎡以上である（図 3）。

【成果の活用面・留意点】

1. 佐賀県平坦部普通期栽培に適用できる。
2. 本品種は、紋枯病の発生が懸念されるため、多肥栽培を避け、栽植密度は 18.2 株/㎡(60 株/坪)～21.2 株/㎡(70 株/坪)で調整する。

[具体的なデータ]

表 1 施肥量別の生育・収量

年次	施肥量(Nkg/a)	移植日	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	倒伏	収量	収量	千粒重	検査	玄米タンパク質
(栽植密度)	(基肥-中追-穂肥)	(月/日)	(月/日)	(月/日)	(cm)	(cm)	(本/㎡)	程度	(kg/10a)	対比	(g)	等級	含有率(%)
2020 (20.5株/㎡)	4-2-3		8月24日	10月8日	82.6	20.3	353	<u>3.5</u>	529	100	23.6	<u>12.0</u>	<u>6.0</u>
	4-2-0	6月17日	8月24日	10月6日	79.2	19.0	360	<u>3.5</u>	543	103	23.2	<u>12.0</u>	5.6
	4-2-6		8月24日	10月9日	84.1	20.5	335	<u>3.5</u>	527	100	23.7	<u>12.0</u>	5.3
2021 (19.7株/㎡)	4-2-3		8月29日	10月4日	80.5	16.4	459	0.5	611	100	24.1	<u>3.0</u>	6.5
	4-2-0	6月22日	8月28日	10月3日	77.6	16.6	402	0.1	552	90	23.6	2.8	6.1
	4-2-6		8月30日	10月5日	79.5	17.4	416	<u>1.8</u>	657	108	24.1	<u>3.0</u>	<u>6.7</u>
2022 (18.5株/㎡)	4-2-3		8月26日	10月4日	83.4	19.7	338	<u>3.0</u>	593	100	23.6	8.3	6.7
	4-2-0	6月21日	8月25日	10月4日	80.9	19.1	311	2.0	597	101	23.5	8.0	6.4
	4-2-6		8月26日	10月5日	80.6	20.5	328	<u>3.0</u>	572	96	23.5	<u>8.5</u>	<u>7.1</u>
2023 (18.3株/㎡)	4-2-3	6月22日	8月25日	10月4日	72.4	20.4	286	0.0	657	100	25.0	3.0	6.2
	4-2-0		8月25日	10月3日	70.0	19.5	280	0.0	556	85	23.8	2.0	5.6
2024 (17.6株/㎡)	4-2-3	6月20日	8月27日	10月4日	70.3	21.2	364	0.0	546	100	22.2	2.5	6.7
	4-2-0		8月27日	10月3日	74.1	18.7	343	0.0	541	99	22.1	2.0	6.2

注 1) 登熟歩合・千粒重・収量は 1.8mm 篩上、水分 14.5%換算値。

注 2) 品質は民間検査員による検査等級、篩目 1.8mm 上、1 等上(1 上)～等外下(外下)の 12 段階で評価。

注 3) タンパク含有率は近赤外線穀物分析機(inframatic9500:Perten)による測定値(篩目 1.8mm 上、水分 14.5%換算)。

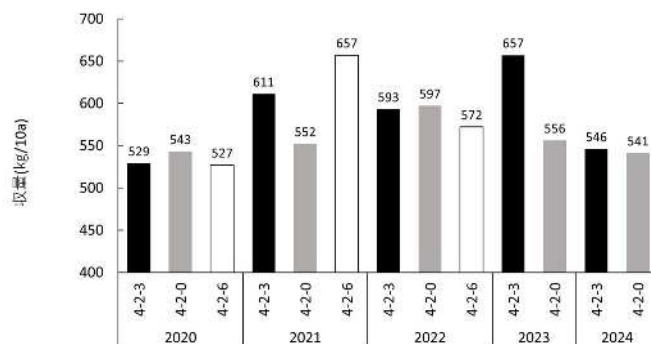


図 1 施肥量別の収量

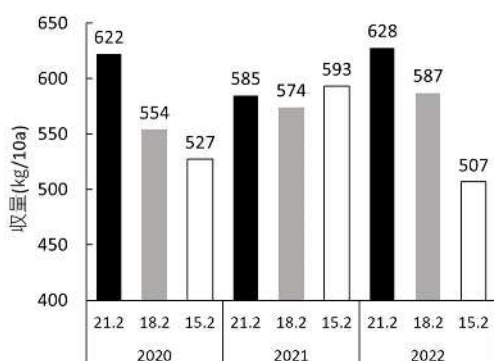


図 2 栽植密度別の収量

注 1) 施肥は、窒素成分 (kg/10a) で 4 (基) - 2 (追) - 3 (穂)。

注 2) 移植日: 2020 年 6 月 17、2021 年 6 月 24 日、2022 年 6 月 21 日

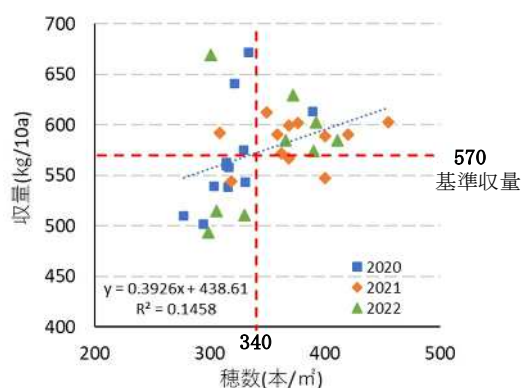


図 3 収量と穂数の関係

注 1) 移植日: 2020 年 6 月 17、2021 年 6 月 24 日、2022 年 6 月 21 日

[その他]

研究課題名: 需要の動向に即した水稻・麦類・大豆新品種系統の作柄安定化対策試験

予算区分: 県単

研究期間: 2020～2024 年度

研究担当者: 西岡廣泰、崎山将太、相川倫子、居石奈々、秀島好知、森敬亮、岩城雄飛、
田村直樹、河野太祐